

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	依存症患者リワーク強化型精神科デイ・ケア
事業名(副)	

入力数 主 20 字 副 0 字

実行団体名	医療法人 誓生会
資金分配団体名	プラスソーシャルインベストメント株式会社

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野	
<input type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援 <input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援 <input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援	
	<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
	<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_3.すべての人に健康と福祉を
_8.働きがいも経済成長も
_10.人や国の不平等をなくそう
_11.住み続けられるまちづくりを

実施時期	2021/6/1 ~ 2022/3/1	事業対象地域	<input type="checkbox"/> 全国 <input checked="" type="checkbox"/> 特定地域 (愛媛県)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	精神疾患患者（アルコール依存症、ギャンブル依存症、薬物依存症および鬱・統合失調症等の精神障がい者）	事業対象者人数	50人
------	---------------------	--------	---	---------------------------------------	---	---------	-----

I.団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
<p>当院は初代院長が大正13年に山内医院を開設して以来、時代のニーズに合わせた良質な医療を提供している。現在の松風病院は、従来の精神科病院の暗いイメージを払拭し、地域に開かれた明るいイメージの病院である。</p> <p>当法人は「生きる力を育む」という理念のもと、患者やその家族が持っている健康な生きる力を最大限に生かすため、良質なチーム医療や心安らぐ快適な医療環境を提供することで、心身の健康向上を目指している。</p>
(2)申請団体の概要・事業内容等
<p>当院は精神科・神経科・心療内科・内科を標榜し、精神病床204床・療養病床45床のほか、介護老人保健施設40床、サテライトの診療所（精神科・心療内科）を有しており、幅広い患者層に対応している。また、重度アルコール依存症入院医療管理や認知療法・認知行動療法、精神科デイケアの施設基準を届出しており、高度な精神科専門療法を用いることで向精神薬等の投薬に依存し過ぎない治療を提供している。</p>

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
<p>【社会背景】 アルコール依存症の患者数は現在日本国内で80万人以上といわれており、その予備軍も含めると約440万人にもなると推定されている。一方、病院で治療を受けている人数は約10万人であり、患者数と治療者数の間に大きな差が生じている。（厚生労働省「みんなのメンタルヘルス総合サイト」より）</p> <p>【コロナとの関連性】 また、2020年12月に厚生労働省社会・援護局が公表した「新型コロナウイルス感染症に係るメンタルヘルスに関する調査結果概要について」によると、新型コロナウイルス感染症の拡大により、不安やストレスをうまく発散・解消できていないと回答した人は約2割であり、日常生活における変化では、運動量が減少した人が約4割、ゲームをする時間が増加した人が約2割いた。飲酒量については増加した人と減少した人はそれぞれ約1割とほぼ同程度であった。</p> <p>【事業対象者が抱える問題】 依存症は長年の習慣がもたらす病気で、本人が病気を認めたがらない傾向にあり、治療が開始できない又は治療が遅れてしまうことが多い。アルコール依存症の場合、進行すると体や精神に悪影響だけでなく、飲酒運転で摘発されたり職場でのトラブルが重なって失業、というように社会・経済的な影響が徐々に大きくなり、友人や家族との関係も影響を受け、自分の内外の世界で多くの大切なものを失うことに繋がる恐れがある。</p> <p>【解決の必要性】 新型コロナウイルス感染拡大の長期化による失業者増加、在宅時間の増加により、各種依存症に陥る機会は増加していると考えられ、依存症患者の増加が懸念される。新型コロナ終息後の経済正常化の際に依存症患者が取り残されないように、今後顕在化してくる依存症患者の早期治療と早期社会復帰を図るための受入体制整備を進める必要がある。</p>

入力数 (1) 200 字 (2) 191 字

入力数 751 字

III.事業内容

(1)事業の概要
新型コロナウイルス感染拡大の長期化によってアルコール等依存症患者の増加が懸念されており、当該患者の早期治療と早期社会復帰を支援する必要がある。現在本院が有する精神科デイケア施設は、うつ病や統合失調症患者が中心であり、旧病棟内に設置しているため耐震上の問題も抱えている。今回、病院敷地内に精神科デイケア施設を移転新築した上で、依存症患者の復職支援を強化した施設にリニューアルする。当該取組により施設の耐震性・感染防止対策の観点における安全性が向上し、地域の依存症患者を含む精神疾患患者の復職が促進され、地域経済における失業率や人材不足等の問題の改善に繋げていく。

入力数 281 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
当院の入院医療及び精神科デイケアを含む外来医療を受診したアルコール等依存症患者が、集中的な専門療法により症状が改善し、治療開始から1年以内を目途に、自立した日常生活および一般企業等への就労や復職を果たすこと。

入力数 105 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
・ 当院を受診したアルコール等依存症患者の就労及び復職の実現 ・ 治療中のアルコール等依存症患者の状態改善	・ 治療開始後1年間の就労及び復職を実現した人数、割合 ・ 治療を開始した患者のGAF尺度の改善（GAF:Global Assessment of Functioning ※精神障害を対象とする代表的な社会的機能水準評価）	・ 依存症治療を開始した人数、その後日常生活復帰、就労、復職を実現した人数のカウント ・ 治療開始時及びその後の定期的なGAF尺度の測定	・ 依存症治療を開始した人数のうち、1年以内に日常生活復帰、就労、復職を実現した人数の割合が50%以上 ・ 治療開始時と3ヶ月後のGAF尺度を比較し、改善した患者の割合が70%以上	精神科デイケアリニューアル時期： 2022年2月 GAF目標集計：2022年8月 復職者等集計：2023年2月

(4)活動	時期
①精神科デイケア施設建物の新築、器具備品等の購入	2021年6月～2022年1月
②依存症患者の復職支援を実施する職員の雇用	2021年10月～2022年1月
③精神科デイケア施設リニューアルオープン	2022/2/1
④精神科デイケアでの依存症患者の受け入れ開始	2022/2/1
⑤リワーク強化型プログラムの実施	2022年2月以降継続実施

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	①統括責任者：山内紀子（理事長）：本助成事業の統括として、事業の遂行・実績管理等全般を担当する。 ②診療責任者：森野日出緒（理事・院長）：精神科デイケアにおける診療責任者としてコマメディカルの指導や実施プログラムの点検を行う。 ③事務責任者：加地宣幸（理事・事務局長）：本助成事業の目標と実績の管理及び報告を担当する。
(2)他団体との連携体制	①公立学校共済組合四国中央病院：同病院は認知症以外の精神科診療を休止しており、当院への患者紹介等の連携体制を構築している。 ②障害者就業・生活支援センタージョブあしすとUMA：依存症患者を含む精神障がい者の就労にあたって連携を構築する。 ③愛媛銀行：本助成事業の検討段階から事業内容の検討や計画策定の助言を受けており、必要なつなぎ資金等の融資対応も頂ける予定。本助成事業開始後も継続してコンサルティングを受ける予定である。
(3)想定されるリスクと管理体制	1. 当院は従来よりアルコール依存症の入院治療や、認知療法・認知行動療法等の外来による精神科専門療法を実施しているが、今回取組を行う精神科デイケアにおける依存症患者のリワーク支援については過去の実績が無いため、依存症患者の受診が確約されているわけではなく、また、就労や復職を達成できる患者割合や必要期間も未知数である。 2. 当院の長年の診療実績と専門スタッフによる質の高いサービス提供と、障害者就業支援機関や取引金融機関との連携により、就労の成果にも繋げていくことで上記リスクをクリアしていく。

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
【調査研究実績】 特になし。				
【連携実績】 2021年3月8日に当院の分院となる無床診療所「こころの診療所いぶき」（心療内科・精神科）を四国中央市下柏町に開設し、従来よりも広域で精神疾患患者の診療が可能となり、入院治療が必要な場合はスムーズに病院で受け入れができる体制となっている。また、当法人運営の「介護老人保健施設ちかい」や「訪問看護ステーションちかい」、市からの受託事業である「四国中央市在宅介護支援センターちかい」が連携しており、高齢化が進む精神疾患患者について、介護との連携も課題として認識し十分な対策を取っている。				